

## 〈応援団に関する確認事項〉

望ましい応援と応援者の健康管理のため、各学校で応援に関する以下の内容の指導を徹底する。

また、応援団を管理する責任者を決め、応援に関する確認事項の徹底と応援者の健康管理を行う。

1. 相手チームを尊重した応援を行い、競技者がそれまでの練習の成果を発揮するのにふさわしい舞台づくりに協力するものとする。
2. 応援団の最終責任者は監督とする。試合中の応援団に関する指導は、大会本部から監督に行うので、監督が応援団への指導を行う。（監督から応援責任者等を通じて指導してもよい）なお、状況によっては、大会本部が直接、応援団に指示・指導を行う場合もあるが、その場合は応援責任者に伝え、試合終了後に内容を監督に伝えることもある。
3. 応援団は次のことを守って応援すること。
  - (1) 応援はあくまでも自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいただくような言動は禁止する。
  - (2) 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃時のみの応援とする。球場及び球場周辺の環境により「鳴り物」を禁止する場合があるので大会本部に確認する。応援の攻守の切り替えは、自チーム攻撃中の3アウト成立時点とする。自チームが守備側の時は座っていることが望ましい。
  - (3) 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことを禁ずる。
  - (4) 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
  - (5) 試合を妨害するような応援はしない。（審判がタイムを宣告した時や大会主催者からの連絡時等を含む）また、試合審判や大会本部が試合進行に影響があると判断した場合、鳴り物を禁止する場合がある。
  - (6) メガホンを使用してもよい。
  - (7) 笛（ホイッスル）およびペットボトルの使用を禁止する。投手が投球動作に入ったときに、突然鳴り物を鳴らすなどの応援や歓声は禁止する。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時に鳴り物で盛り上げることをないようにする。
  - (8) 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
  - (9) まとまった応援は自チームベンチより外野側とする。ただし会場により不可能な場合は、大会本部の指示した場所で行う。